



中央検査部だより



2019年6月20日発行 第69号



中央検査部 技師長挨拶

渋田 秀美

新体制で臨んだ昨年度の検査部は複数のビッグイベントを抱えてのスタートとなりました。ISO 15189 の拡大審査受審、検体搬送システムの導入、電カル更新に併せての部門システムの更新、いずれも病院医療への貢献、検査部の発展性を見据えたものですが、検査部員が一丸となって取り組まなければ達成しえないほど大きなものでした。新たに技師長職に就いた私はとにかく目の前にある課題から取り組んでいくしかありませんでしたし、おそらく他の検査部員も同様であったと考えています。しかし、検査部員が一丸となり、完璧とはいえないもののこれらのイベントを乗り切ることができ「ファーストステージクリア」といった心境です。

今、検査部はこれらのツールを最大限に駆使し、病院医療へさらに貢献するまさに「セカンドステージ突入」という時期を迎えています。先日「医師の働き方改革に関する検討会」の最終報告がなされ、臨床検査の分野でも「タスクシフティング」という言葉を耳にする機会が増えてきました。当検査部もこれまで「医師、看護師をはじめとした他職種医療従事者の負担軽減」を念頭に業務改革を進めており、やや年月のかかる取り組みとなりますが「生理機能検査の拡充」もその一つです。検査部一同、「我々に求められているものは何か」「我々にできることは何か」を常に念頭に置き業務を遂行していきますので、ご協力のほど宜しくお願いいたします。



検査室紹介 生殖医療室



生殖医療室では、検査技師 2 名で”体外受精”の業務を行っております。体外受精とは不妊治療の一つで、卵子と精子を体外に取り出し、培養液内で受精させ、受精卵を子宮内に戻す治療です。命の源である卵子や精子を扱い、受精までさせてしまうので、一昔前までは医師の仕事でしたが、近年では多くの施設で私たちのような”胚培養士(エンブリオロジスト)”という資格を持つ技師が体外受精の業務に従事しています。胚培養士は受精の操作や受精卵の凍結、受精卵の評価など臨床成績に直結する非常に重要な役割を担っており、日々の訓練や勉強が欠かせません。なかなか表舞台には出ない生殖医療室ですが、体外受精についてご質問等あれば、気軽にお問い合わせください！



生殖医療室 (PHS 7346・7010)

新人紹介



今年度より中央検査部生理機能部門に配属されました佐々木卓哉と申します。生まれも育ちも山口県で、この春に山口大学を卒業し県立総合医療センターに入職させていただきました。まだまだ至らない点が多いですが諸先輩方のご指導を賜り、地元山口県の医療に貢献していきたいと考えております。今後とも宜しくお願いいたします。

お知らせ:生理機能検査の緊急報告について

生理機能検査室では、緊急報告基準を設定し、運用を開始しています。

対象は心電図検査、心エコー検査、頸動脈エコー検査、下肢静脈エコー検査です。

それぞれに緊急対応が必要な検査所見を設定しています。

緊急対応が必要な検査所見を認めた場合・・・

依頼医へ直接電話報告

依頼医がつかない場合・・・

所属診療科の責任者に電話報告

させていただきます。

詳細は、電子カルテのライブラリをご参照ください。

例えば、
ST上昇、
高度房室ブロック
など・・・